第66回口腔病学会学術大会講演抄録

日時：2001年11月30日 14時00分～16時00分
12月1日 9時00分～16時46分
会場：東京駅前歯科大学 特別講堂（外堀寺駅4番）

＜特別講演＞

再生医学時代の到来
——血管新生のメカニズム——

東京医科歯科大学大学院医学系総合研究科
颚顎面頭頸部症候学系・颚顎面頭頸部医学講座
分子細胞機能学分野
荒田 誠之 教授

ライフサイエンスの世紀と目されるこの21世紀においては、バイオテクノロジーと機能が発展が期待される。再生医学時代が到来し、分子細胞機能学分野の研究がますます注目されている。ドナー足の不器移植が休みながら見せるなか、将来その代わりのものとして、幹細胞を中心とした再生医学が世界的に注目されている。幹細胞移植が血管新生を促進し、新たな血管網を形成し、次に前臨床検討の段階に入り、治療を可能にするとされる。一方、血管新生の抑制は制限因子が新たな制御、VEGF（vascular endothelial growth factor、血管内皮増殖因子）の制御がきわめて重要である。VEGFはその産体（KDR）を介して血管新生作用を発現するが、KDRの発現自体が通常の環境要因によって調節されていることがわかった。血管新生のメカニズムについて私たちは研究を重ねて報告した。

顎顔面頸蓋における異常発生、顎変形症

1981年1月に歯科衛生第二講座として発足し、現在の顎顔面頭頸部症候学系・顎顔面頭頸部医学講座に至る20年余りの間、教員の方々とともに主として先天変異に起因する不調和な咬合や顎変形症に関する研究、教育、臨床に携わってきた。本講演では、教室のテーマのなかから3種の研究テーマについて、これまでの研究でどこまで明らかにことができたかを報告した。

【テーマ1】口蓋裂口蓋裂患者颚顎面頭頸部手術後の発症の性状
口蓋裂口蓋裂患者の顕正治療では、口蓋に出現する形態が後の発症に影響を与えることが知られている。

【テーマ2】顎頭部手術の成長発育
顎頭部手術の成長発育と鱼介の成長発育を比較し、顎頭部の成長発育が顎頭部手術の成長発育に影響を及ぼす可能性があることが示唆される。

【テーマ3】組織学的観察とin situ hybridization等による研究の成果を報告した。

＜一般口演＞

1. 本学歯学部附属病院来院患者の受診行動と意識

歯科医療行動科学分野
○関田直美、楠木志朗

本病院における患者の受診行動と病院臨床における主観的な評価に関する実証的な研究を目的として、平成13年9月6日に来院した外来患者1,483名（回収率43.8％）を対象に自動記録装置による調査を実施した。

回答者の平均年齢51.3±18.6歳、平均通院時間は63±43分であった。うち71％がを見せ方に来院しており、受診期間は平均44±72ヶ月（中央値18ヶ月）であった。

患者詳細の検討でむくみの存在を認めるために採取する因子分析により因子構造を推定し、症例数およびプロモバス法を用い、因子数1.0以上の条件で6因子が抽出された（累積寄与率51％）6因子について、それぞれ項目群「歯科医師の技能」、「治療を安心」、「治療を安心」、「治療を安心」、「治療を安心」、「治療を安心」、「治療を安心」という項目が抽出され、最も寄与度の高い因子群が抽出された。